

帝 塚 山 大 学

国 語 試験問題

試験時間 60分

- 試験開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
問題は全部で12ページです。試験開始とともにまずページ数を確認してください。
- 解答は、HBの黒鉛筆またはシャープペンシルで正しくマークしてください。
- 解答は、解答用紙の対応する解答番号欄にマークしてください。
- 受験番号は受験番号欄に記入し、受験番号欄の下欄にマークしてください。
- 解答用紙の科目名記入欄には国語と記入し、さらに国語の欄にマークしてください。
- 解答を訂正する場合には、消しゴムで完全に消し、消しきずが残らないようにしてください。
- 解答用紙は汚したり、折り曲げたりしないでください。
- 終了後退出するとき、問題冊子は持ち帰ってください。

マーク解答用紙記入例

◇受験番号記入例

〔受験番号 10001B の場合〕

受 験 番 号 欄					
万位	千位	百位	十位	一位	英字
1	0	0	0	1	B

受験番号（マーク）	万位	●	2	3	4	5	6	7	8	9	0			
	千位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	●			
	百位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	●			
	十位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	●			
	一位	●	2	3	4	5	6	7	8	9	0			
	英字	A	●	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
	字	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z

◇解答記入例

〔解答が③の場合〕

良い例

解 答 番 号	解 答 欄
1	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

記入枠のマーク内を塗りつぶす

悪い例

解 答 番 号	解 答 欄
1	① ② ③ ④ ●
2	① ② ③ ④ ●
3	● ② ③ ④ ●

- 左のようなマークが不完全なもの

- 塗りつぶしがはみ出ている

- ×印をつけても消したことになりません

このような記入をしてはいけません。

◇科目名記入例

科目名記入欄	国語	英語	日本史	世界史	数学ア	数学イ
国 語	●	○	○	○	○	○
					理科①	理科②
					○	○

I

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(出題の都合で、表記を改めたところがある。)

解答番号

1

、

22

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

(大庭健『いま、働くということ』による)

〈設問〉

問1 傍線部(1)～(10)のカタカナの部分と同一の漢字を用いるものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(1)	ソウモク	① 別ソウに滞在する	② 悲ソウな決意	1
		③ 幻ソウを抱く	④ 憲法のソウ案を練る	
		⑤ 武ソウを解除する		
(2)	セイミツ	① 紳士服を縫セイする	② セイ鋭部隊を派遣する	2
		③ 天セイの楽天家	④ 飛行機をセイ備する	
		⑤ 余セイを駆って攻める		
(3)	チュウシヨウ	① エキスをチュウ出する	② 一家の支チュウを失う	3
		③ 実力が伯チュウする	④ チュウ誠を誓う	
		⑤ 海外に進チュウする		
(4)	トクチヨウ	① チヨウ満員の盛況	② 絶チヨウを極める	4
		③ 税金を追チヨウする	④ 慶チヨウ費を集める	
		⑤ 受付で記チヨウする		
(5)	スイコウ	① 率先してスイ範する	② 改革をスイ進する	5
		③ 文章の一節を抜スイする	④ 民主主義を鼓スイする	
		⑤ 暗殺未スイ事件		
(6)	オオハバ	① 商品の価格タイ	② 波動の振プク	6
		③ 株価の変動イキ	④ 電磁波のシユウ波数	
		⑤ 地域経済の動コウ		

(7) コウゲン

- ① 作品のコウ拙を問わない
③ 親の威コウをかさに着る
⑤ コウ廃した国土
④ 企業のコウ報活動
② 御コウ配をたまわる

7

(8) カテイ

- ① 大カなく務めを果たす
③ 不カ分な関係
⑤ カ題に答える
② カ敢に反撃する
④ 利益が累カする

8

(9) カイザイ

- ① カイ旧の念に駆られる
③ 富裕なカイ層
⑤ 契約を更カイする
② 弁カイの余地がない
④ けが人をカイ抱する

9

(10) ケイカイ

- ① 外資ケイの企業
③ ケイ観に見とれる
⑤ ケイ略をめぐらす
② ケイ句を吐く
④ 類ケイ的な表現

10

問2 二重傍線部(あ)、(い)の漢字の読みを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

(あ) ① おきて

④ めあて

- ② さだめ
⑤ しくみ
③ きまり

11

(い) ① のが

④ まぬが

- ② みすかさ
⑤ うけい
③ はな

12

問3 空欄(ア)～(ウ)に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

ア ① とりあえず

④ すると

- ② すくなくとも
⑤ それでも
③ そこで

13

イ ① けつきよく

④ とくに

- ② つまり
⑤ なおさら
③ さらに

14

ウ ① ところで

④ ただし

- ② むしろ
⑤ しかし
③ すなわち

15

問4 空欄a～cに入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

a

c

a	① 健康	② 生活	③ 個体	16
	④ 蓄え	⑤ 労働		
b	① プログラム	② 蜜	③ 対象	17
	④ 概念	⑤ 行動		
c	① 真	② 正	③ 可	18
	④ 偽	⑤ 解		

問5 傍線部Aに「広い意味では『働いている』と呼ばれてもおかしくはない」とあるが、な

ぜ「おかしくはない」のか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。 19

① 一般に動物は働かないと思われるが、ほとんどの動物が仕留めた獲物を食べたり、それを巣に持って帰ったり、群れを作って分業・協業して働いている姿は、人間が働いている姿とまったく同じだ、と言えるから。

② 一般に、行動することと働くことは別のことだと考えられているが、人間でも動物でも、餌を求めて動き回ったり、手に入れた餌を子どもに与えたりするところを見ると、「行動する」ことと「働く」ことは同じことになるから。

③ ふつう、動物の行動を「働く」とは言わないが、多くの動物が生存のために役割を分担しあったり、活動の成果を分配・消費することで生命を維持し、種を保存しているところは、経済学でいう「経済活動」や「労働」と同じことだから。

④ 動物も人間も生きるために行動し、生命を維持し、種を保存していることに違いがない以上、人間だけに優越性を認め、人間の行動だけを特別扱いして「働いている」と呼ぶのは不適切であるから。

⑤ ふつう、動物が「働いている」とは言わないが、動物が餌を求めて獲物を捕らえ、それを巣に持ち帰って子どもに与えるところは、人間が労働して家族を養う姿にびったり重なり合うから。

問6 傍線部Bに「人間は、複雑に進化したがゆえに、互いに関係しあって活動するさいにも、

その関係のあり方・活動の仕方は、動物一般とは異なっている」とあるが、人間と動物とはどんな点が異なっているというのか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。 20

① 動物は、仲間の行動から何らかのメッセージを受け取ると、それをすぐさま受け入れて、一定の行動を起こすというプログラムに従って行動しているのに対して、人間は、仲間から言語によるメッセージを受け取ると、まずその真偽を確かめようとする点。

② 動物は、一定の対象に対して一定の反応をするようにプログラムされているから、意図的にうそをついたり、真実をいつわったりしないが、人間は、ある対象を言語で表現する時に、意図的にうそをついたり、いつわりを述べたりすることがよくある点。

③ 動物間の関係は、記号によるコミュニケーションにもとづいているので、相手の考えや意図はつねに明確にとらえることができるが、人間間の関係は、言語によるコミュニケーションにもとづいているので、相手の考えや意図は、慎重に推測しないと見逃してしまうことが多い点。

④ 動物間の関係は、因果関係によって自動的に行われるコミュニケーションにもとづいているので、相手への思いや意図は問題にならないが、人間間の関係は、うそをつくこともできる言語によるコミュニケーションにもとづいているので、相手への思いや意図が重要である点。

⑤ 動物間の関係は、一定の対象の認知が一定の行動を生むというプログラムにもとづいているので、相手の意向をさほど気にする必要はないが、人間間の関係は、言語という不安定な要因にもとづいているので、つねに相手の考えや意図を推測する必要がある点。

問7

傍線部Cに「記号を用いたコミュニケーションをつうじて協業する」とあるが、これをミツバチの行動に即して述べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

21

① 餌である蜜をみつけたミツバチは、8の字飛行という記号を用いて仲間と連絡を取り合い、蜜の採集という目的の実現に向けて協力して働いている。

② 餌である蜜をみつけたミツバチが描く「8」の字のパターンが、仲間に餌のありかを示す記号として用いられ、蜜を探索する時間を短縮することで効率的な労働が成立している。

③ ミツバチは、餌である蜜をみつけると、それを仲間に伝えるために「8」という文字を空中に描き、それを見て集まってきた仲間のハチと協力して蜜を吸い取る時間を大きく短縮している。

④ ミツバチは、人間が言語を用いてコミュニケーションを行うのと同様に、8の字飛行という記号を用いて仲間同士でコミュニケーションを取り合いながら、ともに進める仕事の効率化を図っている。

⑤ ミツバチが、探している対象である蜜に接したことが原因となって、それを指示する記号を用いて仲間のハチとのコミュニケーションを図り、こんどはそれが原因となって仲間が蜜を探し始めるようになる。

問 8

傍線部 D に「人間の言語は、そうではない」とあるが、これはどういうことか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

22

① 動物のコミュニケーションに用いられる記号は、単に対象に対して反応した行動に意味を見出したものにすぎないが、人間の用いる言語は、意味を持った語を組み合わせる文を作るといふ形を取るので、広くどんな内容でも表現し、相手に伝達することができる、ということ。

② 動物のコミュニケーションに用いられる記号は、単に実在する対象を指示しているだけだが、人間がコミュニケーションに用いる言語は、語を組み合わせる任意の文を作るので、実在する対象だけではなく誤りやうそまでも表現し、伝達することができる、ということ。

③ 動物がコミュニケーションに用いる記号は、認知した対象に対する動物の反応なので、常に対象の存在を指示するだけで、うそのまじる余地はないが、人間の言語は語を組み合わせる任意の文なので、その内容は、話し手の思いや意図によって大きく歪められることが多い、ということ。

④ 人間がコミュニケーションに用いる言語は、話し手の思いや意図を文の形で表現したものなので、うそやにせの情報に騙される^{だま}こともあるが、動物の用いる記号は、対象の存在を身体の動きで表現したもので、安心して受け取ることができる、ということ。

⑤ 人間の用いる言語は、語と語とを組み合わせる通常の文という形を取るのに対して、動物の用いる記号は、通常の文に省略を加えた一語文という形を取るなので、相手の思いや意図が伝わりにくいという欠点を持っている、ということ。

Ⅱ

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(出題の都合で、表記を改めたところがある。)

解答番号

23

～

32

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

著作権の都合上、省略。

(武光誠『大坂商人』による)

(注) 大坂……現在の大阪は、明治初年までは「大坂」と表記されていたので、本文でも、江戸時代の大坂については、「大坂」と表記されている。

〈設問〉

問1 空欄（ ア ）（ ウ ）に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうち

ちからそれぞれ一つずつ選べ。

ア ① よし ② 好み ③ 頂点

④ 得意 ⑤ はじめ

23

イ ① 影響 ② おかげ ③ 余波

④ せい ⑤ ながれ

24

ウ ① しきりに ② いちずに ③ いたずらに

④ みだりに ⑤ ひとえに

25

問2 空欄 a ｝ c に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちか

らそれぞれ一つずつ選べ。

a ① もとで

④ 採算

② 大金
⑤ 損得

③ 経費

26

b ① 運送

④ 着想

② 水運
⑤ 集荷

③ 才覚

27

c ① 配達

④ 依頼

② 貸付
⑤ 転売

③ 譲渡

28

問3

傍線部 A に「大阪人の昆布好みは、江戸時代の大坂の商家の人びとによってつくられたものだ」とあるが、その背景にどんな事情があったというのか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

29

① 昆布の主産地である北海道の産物を出荷した松前藩は、東廻り^{まわ}りで江戸へ出荷するよりも西廻りで大坂へ出荷するほうが有利だったことから交易がふえ、大坂で昆布料理がはやるようになったということ。

② 昆布の主産地は北海道で、松前藩が出荷したが、当時は江戸よりも海運の便のいい大坂へ送られたので、大坂では昆布だしのほか、さまざまな昆布の加工食品が生み出されたということ。

③ 昆布の主産地は北海道で、松前藩が出荷したが、すでに鰹魚^{かつお}を調理に用いていた江戸よりも海路で大坂へ出荷されることが多かったので、大坂で昆布料理が発達したということ。

④ 松前藩が昆布の出荷をはじめた頃には、まだ太平洋の東廻り航路は開かれておらず、日本海の西廻りで大坂へ出荷したところ、これが受け入れられ、ついには大坂の料理の基本になったということ。

⑤ 当時、食材の大量消費地は江戸と大坂であったが、廻船^{かいせん}の便の悪い江戸を避けて昆布を大坂へ送ったところ、好評を博し、料理の基本になるほか、さまざまな加工食品まで生み出されたということ。

問4

傍線部 B に「大坂が江戸より北海道に近い位置にあった」とあるが、これはどういうことか。最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

30

① 北海道からの距離は、江戸のほうが近かったが、波の荒い太平洋航路の整備を待つよりも、日本海を通る西廻りで大坂へ向かうほうが、時間を節約できる点で現実的だった、ということ。

② 北海道までの直線距離は、大坂よりも江戸のほうが短い^うが、波の荒い太平洋を迂回^うして江戸に行くよりも、日本海航路で大坂へ行くほうが、距離も時間も短縮^うすることができた、ということ。

③ 物理的距離は、大坂よりも江戸のほうが北海道に近いと言えるが、太平洋航路は波が荒く、いつ到着するかわからないのに対して、波の穏やかな日本海航路だとかえって早く到着することができた、ということ。

④ 実際は、北海道からだ大坂より江戸のほうが距離は短いのだが、航路の安全が保証されない江戸よりも、航路が整備されている大坂のほうがより早く到着することができた、ということ。

⑤ 物理的距離は、大坂よりも江戸のほうが北海道に近いが、波の荒い東廻りは航路が整備されていなかったのに対して、西廻りは安定した航路が開発されていたのでより身近だった、ということ。

問 5

傍線部 C に「大坂に出入りする船の数は千や二千ではおさまらなかった」とあるが、大坂の船の数について述べたもののうち、適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

31

① 大坂で公認された川船の数は、元和五年に二六二三艘であったが、約八十年後の元禄一一年には三六二三艘にふえていた。

② 元和五年の大坂には一〇石積みで一人乗りの上荷船^{うわにぶね}が一五九二艘、二〇石積みで二人乗りの茶船^{ちやぶね}が一〇三一艘あった。

③ 大坂では、元和五年から元禄一一年の間に、公認の上荷船だけでも五〇〇艘ふえた。

④ 大坂には、長距離を航海するための大型船の他に、近距離のための外洋船や中小型の川船が二〇〇〇艘ほどあった。

⑤ 延宝二年から元禄一一年の間に新しく一〇〇〇艘の大型船、小型船が作られた。

問 6

傍線部 D に「大坂における商業の発達はめざましかった」とあるが、江戸時代の大坂の商業について説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

32

① 江戸時代の初期には、日本海を用いた西廻り航路が早く整備されたので、北海道や四国、九州の産品も、大坂に集まるようになった。

② 西廻り航路の恩恵もあって、大坂には全国からの産品が集まるようになり、「天下の台所」と呼ばれた。

③ 大坂から江戸へ物品を運ぶことを「下り^{くだ}」と言ったが、このことばは、現在でも「上り・下り^{くだ}」という言い回しの中にそのまま残っている。

④ 大坂には、多数の「仲買^{なかがい}」がいたので、全国から産品を仕入れた「問屋」は、すぐさまそれを市中の町人に売りさばくことができた。

⑤ 江戸時代の当初は、商品を大坂から江戸へ運ぶ手段がなかったが、やがて「菱垣廻船^{ひがきかいせん}」や「樽廻船^{たるかいせん}」ができて、それが可能になった。